貝リンガル情報

（アコヤガイ･立神浦 赤崎）

R7－2号

測定：2025年5月13日　発行：5月14日

データ提供：㈱ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所　養殖・環境研究課
TEL 0599-53-0016　FAX 0599-53-2225

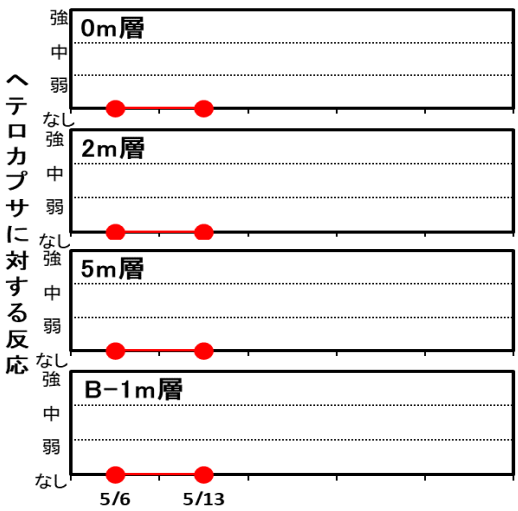
【概況（5月13日 0時 ～ 5月14日 0時）】

- 全層でヘテロカプサに対する反応は『なし』となっています。
- 5月12日の同地点でヘテロカプサは確認されていません。

【 今回の測定結果】

水 深	ヘテロカプサに対する反応　※	備 考
0 m	なし	－
2 m	なし	－
5 m	なし	－
B-1 m	なし	－

【 直近の状況（5回分）】



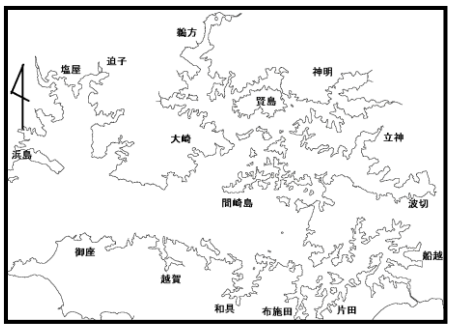
※　**指標と殻体運動**（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。
　⇒極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。

中：連続的なスパイク波形がみられる。
　⇒強いストレスがあり、長く続くと衰弱・へい死の危険がある。

弱：スパイク波形の集中が時折みられる。
　⇒貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

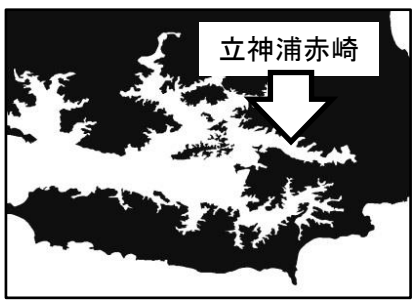
なし：応答なし　⇒影響なし。



●本紙について
- 英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、㈱ミキモトが開発した貝リンガル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- 毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

●貝リンガルについて
- 二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮･貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- 英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

●センサーの設置場所と水深
- 湾奥部（立神浦赤崎）の 0・2・5・B-1m層に設置しています。
- B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。



●利用上の注意点
- 海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- 本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。